

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 県指定文化財 満願寺木造阿弥陀如来坐像

東汗の満願寺は、上三川町で最も古い寺であるといわれており、それを裏付けるように、平安時代末期の仏像が何体も伝えられています。その一つが県指定文化財の木造阿弥陀如来坐像です。満願寺の木造阿弥陀如来坐像が作られた時代は、仏法が衰えて戦乱の世になる末法思想が広く信じられ、1052（永承7）年から末法の世に入るといわれていました。実際、この頃は、貴族による政治が衰退し、それに替わり武士が台頭し、世の中が大きく乱れました。混乱した社会情勢と末法思想によって人々の不安が頂点に達し、これから逃れるために仏に頼ろうと、権力者達は寺院を作ったのです。これらの寺院の中で重要な位置づけにあったのが阿弥陀如来像なのです。阿弥陀如来は西方極楽浄土の主で、末法思想が広まると共に、

極楽浄土で往生したいと思う人々の信仰を集めました。当時の代表的寺院の一つである京都府宇治市の平等院鳳凰堂の本尊は、阿弥陀如来坐像です。また、時の権力者の藤原道長は、現在の京都市上京区にあった法成寺阿弥陀堂の中で多くの僧の読経の中、阿弥陀如来像に見守られながら亡くなったことから、いかに当時の人々に信仰されていたかがわかります。

現在、満願寺の木造阿弥陀如来坐像は、薬師堂に安置されています。安永5（1776）年に書かれた文書を見ると、満願寺には前年に倒壊した建物に弥陀堂があり、その本尊が阿弥陀如来坐像だったと記されています。このことは、以前の満願寺は薬師堂・弥陀堂などの複数の堂宇を持ち、平安

時代末期には弥陀堂を中心に浄土庭園などを持った寺院であったとも考えられるのです。

このように、平安時代から長い期間に渡って、幾多の困難を潜り抜け現在に至った木造阿弥陀如来坐像ですが、近年、光背が大きく破損、台座が欠損し、蓮弁も無くなったほか、本体の傷みが目立ち、造られた当時の姿が大きく損なわれてしまいました。このことから、当時の姿に戻すために、平成21年から2カ年にわたって修繕作業を行い、平成23年2月に再び満願寺に戻ってきました。当時の姿に戻った阿弥陀如来坐像は、再び上三川の地で、人々を見守り続けていくのです。



木造阿弥陀如来坐像

江戸時代			鎌倉時代	平安時代										良時代	時代							
1776	1775	1732	1192	1189	1185	1180	1167	1159	1052	1051	1028	1027	1020	940	894	800	767	西暦				
安永5	安永4	享保17	建久3	文治5	文治元	治承4	仁安2	平治元	永承7	永承6	万寿5	万寿4	寛仁4	天慶3	寛平6	延暦19	神護景元	元号				
東汗村満願寺開基並びに境内社堂書上帳が記される。			この年、満願寺の弥陀堂が大破し、阿弥陀如来坐像は楼門に移される。	宇都宮藩主戸田忠余が満願寺を参詣する。	源頼朝、征夷大將軍に任ぜられる。	源頼朝、源頼朝、宇都宮三荒山神社を詣で、勝利を祈願する。	奥州征伐に際し、源頼朝、源頼朝、宇都宮三荒山神社を詣で、勝利を祈願する。	平家、壇ノ浦にて滅亡。	源頼朝、伊豆で挙兵。	平清盛が太政大臣になる。	平治の乱が起きる。	※このころ満願寺木造阿弥陀如来坐像がつくられる。	この年から、末法の世に入るといわれる。	前九年の役が始まる。宇都宮宗円、源頼義に従い下野に来る。	平忠常の乱が起こる。	藤原道長が亡くなる。	藤原道長、法成寺を造営する。	遣唐使の派遣を停止する。	平将門、平貞盛、藤原秀郷の軍に敗れる。	富士山が噴火する。	勝道上人が日光開山の折、満願寺を開くという。	で き こ と